

DEC 2011

Vol. **7**

KIZUNA.7

近畿大学医学部 附属病院 広報誌

きずな



理念

患者本位の開かれた病院として、
安全で質の高い先進医療を提供します。

基本方針

1. 特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
2. 教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
3. 南大阪における基幹病院として地域医療に貢献します。
4. 働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。

発刊にあたって

近畿大学医学部附属病院 病院長 工藤 正俊

近畿大学医学部附属病院広報誌「きずな」第七号をお届け致します。

2011年8月末に上陸した台風12号は全国に多大な被害を与えました。3月11日の東北を襲った東日本大震災に引き続き自然災害の恐ろしさを目の当たりにしました。このような時にこそ人命の大切さを改めて考えさせられる時です。我々医療従事者も一人一人の命を尊重することはもちろんのこと、地域住民の方々の健康を守るため、精一杯の努力を致したいと思えます。本号でも院内の様々な部署・活動の紹介がなされておりますので参考にさせていただければと思います。

この冊子が、皆さまのお役に立てることを祈念致しまして、第七号のご挨拶とさせていただきます。



C o n t e n t s

発刊にあたって	P.01
最新情報	P.02
各診療科の紹介（腫瘍内科）	P.06
各診療科の紹介（泌尿器科）	P.07
基礎系教室の紹介（法医学）	P.08
緩和ケア室だより	P.09
中央放射線部だより （PET分子イメージング部）	P.10
看護部だより	P.11
ほいくだより	P.13
特集「低線量放射線の健康影響 & 異物による気道閉塞時の処置」	P.15
大阪狭山市の歴史	P.17
各診療科のご案内	P.18

《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

最新情報

震災時のDMAT出動

2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は東北地方に未曾有の被害を与えました。自衛隊、消防、警察と共に災害医療活動にあたるDMATをご存知でしょうか？

DMATとは、大地震及び航空機・列車事故といった災害時、被災地に迅速に駆けつけ救急治療を行うための専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームです。そして日本DMAT隊員とは、国立病院機構災害医療センターなど厚生労働省が認めた専門的な機関で実施される「日本DMAT隊員養成研修」を修了し厚生労働省に登録された者で、DMAT登録者は災害急性期にDMATとして派遣されます。

当院には日本DMAT隊員は医師6名、看護師6名、ロジスティック3名が在職しています。

今回の大震災では、DMAT活動のうちの広域搬送と病院支援を各都道府県から参集したDMATと共にを行いました。活動場所としては、広域搬送は空港内の主に格納庫に臨時医療施設を立ち上げ医療活動を行います。病院支援は、被災地内の病院に対する医療の支援で、多くの傷病者が来院する病院でのトリアージ、当該病院での診療支援、広域搬送のためのトリアージなどを行います。

震災発生翌日に第1隊が空路自衛隊機でいわて花巻空港に入り、広域搬送医療拠点での診療と空路羽田空港へ患者さまの搬送を行いました。第2隊目は当院のドクターカーで陸路岩手県大船渡市に向かい病院支援に入りました。病院支援では救急搬送された患者さまの対応、救命救急センターの夜勤を含めた勤務シフトに入り災害救援活動を行いました。

近い将来、東海・東南海・南海地震が発生すると言われています。当院在職のDMAT隊員は院外の活動を担う可能性もあり、院内での医療活動は震災時院内で勤務している職員、家族の安全を確認し出勤できた病院職員、そして他府県からの災害支援者（DMAT）が院内で活動することが考えられます。今回、救急搬送されてきた方々から聞かせていただいた言葉、被災地内で勤務されていた職員のおかれた立場など現地に足を運ぶことにより、災害時の対策の重要性を肌で感じることができました。

今後当院においても通院される方々や地域住民の方々に災害医療に関する知識や経験を役立てていかなければならないと実感しました。

(文責：倉又 佳代)



3月13日近大DMAT 1隊



3月17日近大DMAT 2隊

HARTプロジェクト

主催：医学部附属病院－文芸学部連携プロジェクト

共催：サービス向上・業務改善委員会

当院では『院内サービス向上・業務改善委員会』を設けて、医療スタッフの接遇や待ち時間の問題等、患者さまの立場からホスピタリティの姿勢を見失わないように努めています。その一環として、近畿大学文芸学部芸術学科と連携をして「院内に

芸術を」という試みを進めています。

医学的治療に加えて、芸術もまた心身の痛みを少しでも和らげる手助けになればとの思いで、HOSPITAL ART（ホスピタルアート）、略して“HART”プロジェクトと名付けています。

ここで活動の一部を紹介します。

2011年7月19日(火)～30日(土)・1階売店前展示スペースにて

近畿大学文芸学部芸術学科+啓明（ケミョン）大学（韓国／視覚デザイン学科）+医学部・附属病院関係者+小児患者の皆さま、総計約100名が思い思いに描いた花を集めて、大きな1つの共同作品にしました。

を越えて広く外部の人たちとつながることができ

ます。
また、アートによって、自分ばかりでなく他の多くの人々を元気づけることができるかも知れません。それぞれ違った立場、年齢、性別、国籍であっても、ここに1つのメッセージとして壮麗な形を結びました。

たとえ病気やけがで入院生活を送っている状況においても、このような形で、病棟を越え、国境



Hart 国際交流プロジェクト展「百花繚乱展」

2011年8月11日(木)～2011年9月17日(土)・1階売店前／2階中庭にて

これらの展示作品は、アメリカ東部のフィラデルフィアにあるUARTS（芸術大学）の学生11名と、近畿大学文芸学部芸術学科の学生13名の共同制作です。

3月11日の悲報を渡米したフィラデルフィアで知った学生が、アメリカの学生とその衝撃と悲

しみを共にし、共同作業を実現、今回の展覧会にいたしました。

テーマは「祈り」です。被災された東北の方々や、患者の皆さまに芸術という視点から、学生たちのメッセージやエネルギーが、伝わることを願った作品となりました。



UARTS + 近畿大学文芸学部 日米共同ワークショップ「祈り」

2011年9月5日(月)・57病棟にて

近畿大学文芸学部芸術学科+医学部学内共同研究の一貫で、快適な医療空間開発事例として小児処置室の全面改修をおこないました。子どもの処置に対する不安や緊張をすこしでも和らげるよう

に、照明や壁面に工夫を凝らしたデザインに仕上がりました。芸術学科の学生や、外部の家具デザイナー、アーティストのアイデアも盛り込まれています。



小児科病棟・処置室 竣工式

HARTプロジェクトどこでも劇場「言の葉」 2011年9月24日(土) 16:30・2階外来待合ロビーにて

芸術学科舞台芸術専攻の学生による演劇を上演しました。入院しておられる患者さまたちを対象に作られた創作劇で、最先端技術が溢れる世の中で、人と共に生きるとは何かを四字熟語や諺で問う作品に仕上げたものです。この作品を作るにあたり、去る5月30日(月)に神経内科の三井良之先生の企画でワークショップ「医療について考えてみよう」を役者兼創作者である担当学生9人が受講しました。創作段階で病院事情に少しでも精

通しようという試みでした。

上演当日は外来受け付終了と共に、ロビーの椅子を移動させ受付カウンターを背に13枚のパネルを使って演技空間が作られました。病院職員と共に院内に劇場が作られる過程だけでも興味深く、集まって下さった観客にとってしばしの気分転換になったのではないかと学生は勿論、担当教員・病院スタッフも願っております。



腫瘍内科

腫瘍内科は固形腫瘍に罹患された患者さまを対象に、他科および他院の医師、看護師、ソーシャルワーカーらと連携したケアを提供しております。対象となる疾患は、5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん）や、頭頸部がん、食道がん、肉腫や原発不明がんなど、比較的早期のものから末期まで幅広く扱っております。腫瘍内科医は、①診断し、病気の予後などについて説明を行

う、②患者さまが治療方法について理解し、自分に合ったものを選択してゆく、③治療の効果や合併症を身近に観察し、必要な対処を行ってゆく、④がんに伴う肉体的、精神的苦痛を緩和することを通して、サポートを行います。特に、新しい薬物治療の開発に力を入れており、分子標的薬など多くの治験、臨床試験を実施しております。

（文責：鶴谷 純司）

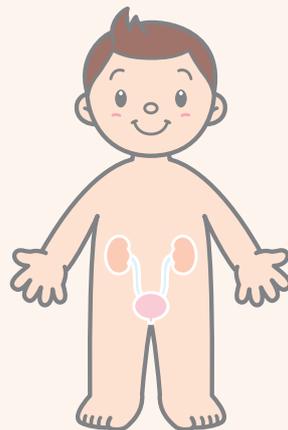


泌尿器科

当科のスタッフは現在12名です。泌尿器科は泌尿器科がんに対する外科手術や腎移植・尿路結石症・排尿障害などの治療を行っています。特色としては、腎がんや前立腺がんに対するペプチドワクチン療法の開発で先駆的役割を果たしています。特に前立腺がんに対しては、手術療法・密

封小線源治療・強度変調放射線療法（IMRT：intensity modulated radiation therapy）と多彩な治療オプションを有しています。親切・丁寧を心がけ治療しておりますので、皆さまお気軽に受診して下さい。

（文責：林 泰司）



私、巽信二が平成19年4月1日に法医学教室所属長になり、早や4年半が経過しました。当教室製作の消臭液剤を用いて総務省消防庁より研究費を獲得し平成21年度に成果報告書を作成しました。同時期に使用消臭剤の商標登録に成功しました(KULM くるむ)。平成21年3月より日本初の法医学教室単独所有のCTスキャン装置を導入し現在まで600件弱の案件のデータを得、そのデータに解剖所見は基より病理所見を備えるこ

とにより、より正確な診断を加えたノウハウは他に類を見ず、現在、製本中であります。また、昨年5月より世界に先立って、一塩基多型による法医学的応用を開始しました。少ないDNA資料(最低1ナノグラム;十億分の1g)や古い資料(当教室で30年前の結果有り)に対応できます。以上、わが教室は防災はもちろん犯罪撲滅など、多大に社会の貢献に日々研鑽努力しています。

(文責: 巽 信二)



■ 緩和ケア室だより

第3回近畿大学緩和ケア研修会を終えて

第3回近畿大学緩和ケア研修会は、近畿大学医学部堺病院の会議室にて6月18、19日の2日間の日程で開催されました。受講者は24名全員医師で、近畿大学からは13名（狭山8名、堺5名）、院外から11名で勤務医9名、開業医は2名でした。院内の受講者は整形外科、呼吸器アレルギー内科、麻酔科、腫瘍内科、放射線腫瘍科、血液内科、メンタルヘルス科から参加いただきました。講師役のファシリテーターには堺病院2名、奈良病院1名、院内1名、院外から5名の先生方に協力いただきました。

研修会のカリキュラムは昨年同様、緩和ケアの基本的な知識の習得を目指して講義形式のセッションやグループワークやロールプレイをとり入れた受講者にも参加いただく形式で行われ、初めて経験された医師もおられました。皆さま最後まで意欲的に参加いただきました。第1日目は午

後2時に植村天受 附属病院副院長の挨拶から始まり、午後8時10分に終了し、第2日目は午前9時から開始し奥野清隆 附属病院副院長から受講者の皆さまに修了証をお渡しして午後5時50分に終了しました。写真は研修会終了後の集合写真ですが、皆さまの晴々した顔がみられます。

この研修会の開催に当たっては、準備の段階から堺病院の職員の方々をはじめ、院内のがん・ライフサポートチームの医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、理学療法士、ソーシャルワーカー、患者支援センターの方々の協力をいただきました。この場を借りてあらためて感謝いたします。

緩和ケア研修会はがん診療連携拠点病院においては要件のひとつとなっており、来年も6月2、3日に開催を予定しています。参加をお待ちしております。

（文責：原 聡）



■ 中央放射線部だより (PET分子イメージング部)

中央放射線部・PET分子イメージング部では、胸部や腹部のレントゲン検査などの一般的な画像検査から、CT、MRI、ラジオアイソトープ(RI)やPETなどの核医学検査にいたる特殊画像検査まで、世界最高水準の診断装置を用いて行っております。放射線診断専門医・核医学専門医・診療放射線技師・看護師などが密に協力し、患者さまに、最高の医療を、より安全に、より負担なく受けていただけるように努力しています。

治療関係でも、放射線腫瘍専門医や診療放射線技師を中心に、体の内外から放射線を照射する治療が最先端の技術で行われており、また放射線科、内科、外科、小児科をはじめとする多くの科が、脳、肺、心臓、肝臓、血管系などの病気に対して、最新の血管造影装置を利用した低侵襲なカテーテル治療を行っています。(文責：村上 卓道)



最新鋭64列マルチスライスCT装置 世界最高レベルのCT装置であり、従来比50%以下の被曝量で全身が10秒以内に撮像できる。



最新鋭SPECT-CT装置 CTとラジオアイソトープ検査機がドッキングしており、病変の描出だけでなく、位置情報が向上している。



最新鋭3テスラ超電導MRI装置 現在、人に対する利用が許可されている最高磁場である3テスラのMRIであり、体内の詳細な情報が、放射線被曝なしにわかる。



最新鋭血管造影装置



血管造影室 脳、肺、心臓、肝臓、血管系などの病気に対して、最新の血管造影装置を利用した低侵襲なカテーテル治療を各専門医が行っている。

■ 看護部だより

看護師は、各科病棟、救命センター、手術室、各科外来、ER部、中央放射線部、通院治療センター、透析室、光学治療センターにおいて、患者さまによりよい看護の提供に努めております。

今回は、60病棟を紹介いたします。



病棟の紹介 60病棟

60病棟は皮膚科と消化器内科の混合病棟です。看護部スタッフ（看護師、診療補助員、病棟クラーク）30名が勤務しています。

患者さまに、安全で安心な看護が提供できるよう、医師や他職種、ときには地域医療を支える方々とも連携・協働しながら頑張っています。

<看護長からの一言>

看護部のユニフォームが10月から新しくなりました！！

これを機に心機一転するとともに、これからも

優しさのある心温かい看護の実践を目指していきたいと思えます。

（文責：石田 洋子）



ユニフォームの左袖に校章と病院名が刺繍されています



■ 看護部だより

当院には、スペシャリストナース（専門看護師）2名、
エキスパートナース（認定看護師）15名が
それぞれの分野の役割を果たすべく日々活動しております。
内、平成23年6月に4名の新認定看護師が誕生しております。
分野は、がん化学療法看護1名、集中ケア1名、がん性疼痛看護1名、手術看護1名です。

今回は、新生児集中ケア認定看護師を紹介いたします。



新生児集中ケア認定看護師の紹介

NICU（neonatal intensive care unit = 新生児集中治療部）には、生後間もない低出生体重児をはじめ心疾患や外科的疾患をもった新生児が入院しています。

新生児集中ケア認定看護師は、新生児の急性期に焦点化された特殊な分野です。

心疾患や外科的疾患をもった新生児（以下ベビーと略します）の急激な変化を予測し重篤化を予防し安定を図るとともに、神経学的な予後にも視点をおき個別的なケアを提供できるように取り組んでいます。

また、どんな状況にあっても、ベビーと両親の関係性を保障し、愛着形成が促進できるように関わることも大きな役割の一つです。適切なケアを提供し、やさしさを十分に発揮できるように、スタッフや両親とともにベビーを育ていける環境を目指しています。

自分が行ったケアに対して、ベビーは言葉ではなく状態の安定化・穏やかな表情という形で答えを返してくれます。ベビーの目線で見つめて、反応を感じとることができるよう日々対話していきます。

（文責：中野 美紀）



ほいくだより

5月26日 お楽しみ会

研修医の先生がアンパンマンに大変身!



6月2日 はみがき教室

歯科衛生士さんたちがはみがき教室を開いてくれました。
いつも、しっかり磨けているかな?



7月7日 たなばたお楽しみ会

研修医の先生のクイズ大会と、羽曳野支援学級分室のみんなが忍者に変身したり合奏をしてくれました。



みんなで演奏♪

AKBに変身!?

8月25日 夏祭り

今年のテーマはアニメ「ONE PIECE」！お店が病棟中にたくさん出て、浴衣を着た学生ボランティアさんや看護師さん、ルフィの格好をした研修医の先生達が賑やかに盛り上げてくれました。特に、もぐら叩きならぬ「モームパニック」や「ウソップの射的」は子ども達に大人気でした。今年は、栄養部のスタッフが手作り綿菓子とゼリーやジュースも用意してくれました。



ルフィに変身!?

おいしいね!

ナミとサンジ!?

※写真は保護者の了解を得て掲載しています。

低線量放射線の健康影響

放射線医学教室・高度先端総合医療センター 細野 眞

原子力発電所の事故をきっかけに放射線、特に低線量放射線の影響に関心が集まっています。低線量放射線の影響で考慮すべきは発がんですが、100ミリシーベルト以下の放射線で有意にがんが増える証拠はありません。しかし安全策を取って、低い線量でも線量に比例した影響がある（100ミリシーベルトで生涯に人口の0.5%が発がん）と仮定して、社会の中に放射線防護システムが構築されています。ところが今回の震災のような緊急事態が発生すると、平常時とは別の対応が求められます。結果として多大な混乱を生じ、被災された方にたいへんな負担を強いることになりました。良かれと思って、被災された方に低線量放射線の影響は軽微であると申しあげても救いにはなりません。被災地に国を挙げた物心両面のサポートが必要であり、医療資源を投入して健康増進を図ることが重要であると思われる。

異物による気道閉塞時の処置

救命救急センター

村尾 佳則・植嶋 利文・坂田 育弘

窒息の所見

- ・ 話をするができない。
- ・ 吸気時の「ヒュー、ヒュー」という音。
- ・ 吸気時に呼吸音が聞こえない。
- ・ 皮膚や唇が紫色（チアノーゼ）になる。
- ・ 「窒息のサイン」あり：世界共通のサイン（首を両手の親指と人差し指で鷲づかみ）



注意

窒息状態の傷病者が、皆「窒息のサイン」を示すわけではない。「窒息のサイン」だけでなく、理学的所見や目撃者の話など様々な情報を、素早く、積極的に集める。

手当の手順

まず、意識のある・なしによって手当の方法を迅速に判断する。

- ・ 「意識がある」
 - ① 咳ができる・・・咳を続けさせる。
 - ② 咳ができない・・・ハイムリック法、背部叩打法
- ・ 「意識がない」：指交差法により開口し、口腔内を観察します。
 - ③ 口腔内異物がある・・・異物除去。呼吸の確認。
以後 一次救命処置へ
 - ④ 口腔内異物がない・・・気道確保し人工呼吸
 - ・ 気道閉塞解除：呼吸の確認。以後一次救命処置へ
 - ・ 気道閉塞継続：ハイムリック法（最高5回まで）に、再度口腔内を観察し、④をくり返す。

塞時の処置

ハイムリック法

自力で咳ができない、意識がない場合に選択されます。救助者の脚を傷病者の股間にに入れる（意識がなくなった場合の転倒防止のため）。救助者は親指を外に出して拳を作り、親指を傷病者の腹部に向け、ヘソのやや上、剣状突起のずっと下の正中線上に置きます。他方の手で握り拳をつかみ、素早く上方に引き上げながら腹部を圧迫します。一回一回、力強く！



背部叩打法

患者の頭部を胸よりも低い位置にして、肩甲骨の間を十分な力を込めて、手のひらの根本（手掌部）で5回まで連続で叩く。

一回一回、力強く！

注意

- 1) 電気掃除機による吸引は吸引力が強く口腔や喉頭を傷害する事があるので、奨められない。
- 2) 乳児では体格が小さいために上腹部の臓器が胸郭内に収まらず、ハイムリック法を行うことで臓器損傷をきたす危険性が高いので、背部叩打法を行う。



大阪狭山市の歴史



大阪狭山市は、大阪平野の東南部の位置にあります。

面積	11.86 km ² (東西 2.4 km、南北 7.0 km)
海拔	最高 165m、最低 52m

「狭山」の地名は、東の羽曳野丘陵と西の陶器山山系に挟まれた眺望のきく地として、このように名づけられたとされています。

市のほぼ中央部に狭山池があり、南から西除川(旧・天野川)、三津屋川の2つの川が流れ込み、狭山池からは西除川・東除川の2つの川が北に向かって流れ出て、ともに大和川に注いでいます。市内に点在するため池と合わせた水面の面積は、市の面積の約7.1%を占め、大阪狭山市の貴重な水源となっています。

奈良時代には僧行基が、鎌倉時代には僧重源が狭山池の改修に携わったという記事があるくらい、大阪狭山市には永い歴史があります。

江戸時代の初め、摂河泉国奉行の片桐且元が狭

山池の改修をし、狭山池から給水を受けたため池は130個、南河内はもちろん、摂河泉80か村、5万5千石分の水田を潤しました。また、江戸時代の狭山を代表する狭山藩北条氏は、北条氏規が歴代外藩祖、第一代藩主が氏盛です。第二代北条氏信が初めて狭山に入り、第十二代氏恭が版籍奉還するまで狭山藩北条氏は270年間続きました。

氏恭の版籍奉還、廃藩後、大阪狭山市域は堺県となったのち、大阪府に編入されました。市制・町村制施行のもとで狭山村と三都村が誕生し、郡界の変更で南河内郡下に置かれました。その後、2つの村は合併して狭山村となり、町制が敷かれて狭山町に、さらに市制施行で大阪狭山市となって、現在に至っています。(文責：小山 優)



**ノースモーキング
ホスピタル宣言**

健康維持・増進のために、タバコのない病院を目指します。
皆様のご協力をお願いします。
病院長

院内および敷地内は全面禁煙です。

入院される患者さまには、禁煙に関する同意書を記入していただいております。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

《個人情報保護について》

個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さまの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。

1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さまの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただくことがございます。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さまからの同意をいただくことしておりますのでご安心ください。
2. 当院では、患者さまの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。

各診療科のご案内

3F	産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター(麻酔科)、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
2F	循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心身医療センター(心療内科)
1F	整形外科、放射線治療科、放射線診断科

外来受付時間

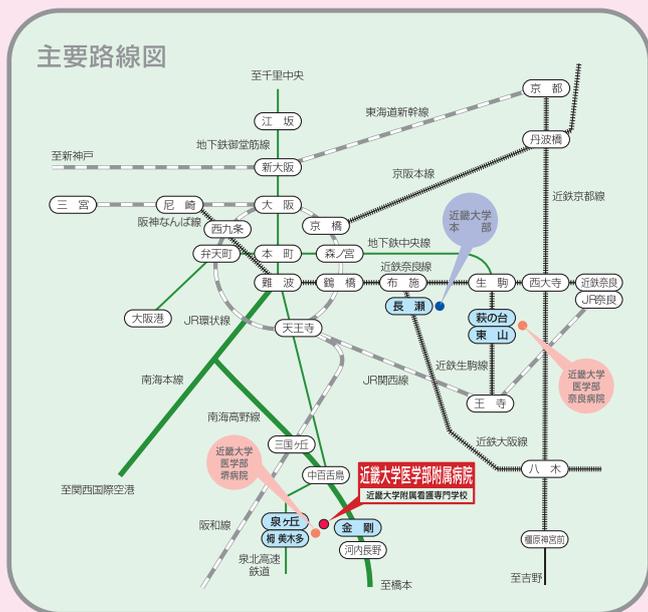
平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		創立記念日(11月5日) 年末年始(12月29日～1月3日)

※患者さまが当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、なるべく当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。

※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として5,250円(消費税込み)をご負担頂きます。

※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

アクセス



お知らせ

広報誌「きずな」のバックナンバーは、
病院ホームページよりご覧いただけます。

アドレス

<http://www.med.kindai.ac.jp/>

- 1 近畿大学・医学部ホームページ [▼ 病院](#) をクリック
- 2 [附属病院](#) をクリック
- 3 [広報誌 バックナンバー きずな](#) をクリック

編集後記

広報誌「きずな Vol.7」をお届けいたします。当院は、災害拠点病院に指定されている病院であり、災害医療の中心的役割を担っております。今回は東日本大震災で活躍した当院の災害医療活動チーム（DMAT）を紹介させていただいております。

災害医療や当院における取り組みなどを紹介することで、日頃の災害対策に少しでもお役にたていただければ幸いです。今後とも、皆さまとのつながりを大切にする「きずな」をよろしくお願いいたします。

発行日／平成23年12月1日 発行場所／近畿大学医学部附属病院
編集／広報誌発行委員会 竹村 司

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

TEL (072) 366-0221 (代表)

FAX (072) 366-0206

ホームページ <http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/>